

農作業一口メモ

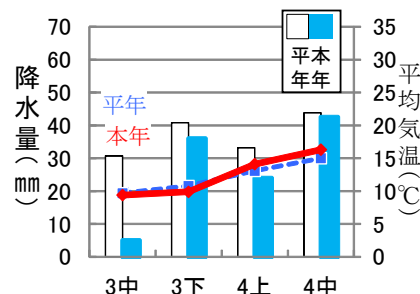
(平成29年5・6月号)

鳴門藍住農業支援センター
鳴門藍住地区農業生活指導班会

気象 <四国地方1か月予報 (4月15日~5月14日)>

- 暖かい空気が流れ込みやすく、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- 低気圧や湿った空気の影響を受けやすく、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並みか少ない見込みです。

(平成29年4月19日高松地方气象台発表)



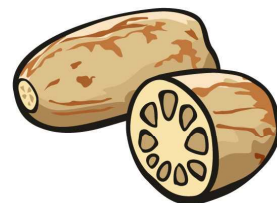
水稲 <植え付け及び植え付け後の管理について>

- 植え付けは3.3㎡あたり50~60株、1株につき3~5本を目安に調整し、深植えとならないようにしましょう。
- 植え付け後、しばらくは深水管理とし、活着したら浅水、3週間目頃から中干しまでは間断かん水で管理しましょう。
- 水田用除草剤の散布後は、効果が落ちないように、1週間程度は田面が露出しないようにしましょう。
- 1株当たり15~20本の莖数が確保できたら、中干しを行いましょう。小さなひびが入る程度を目安に行い、排水の悪い田は溝切りを行って、排水に努めましょう。



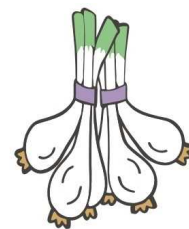
れんこん <アブラムシと雑草の対策を行いましょう>

- 追肥
立葉2~3葉目から徐々に肥料の吸収が高まっていきます。生育状況や葉色を見ながら、追肥を行いましょう。
- アブラムシの防除
浮き葉や立葉1~2葉期にアブラムシが多数寄生すると、生育が抑制され地下茎の肥大が阻害されるため、発生初期の防除に努めましょう。
畦畔の雑草やほ場内のウキクサ、コナギなどの水生植物上でアブラムシが増殖するので除草に努めましょう。
- イネネクイハムシの防除
雑草にも産卵するので、周辺の雑草を除去しましょう。
成虫発生期の6月下旬に、トレボン粒剤を散布しましょう。

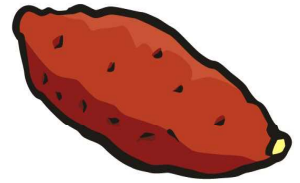


らっきょう <種球採取ほ場の管理について>

- 収穫調整で忙しい時期ですが、特に機械を使う作業については、巻き込まれ等の事故に十分注意しましょう。
- 種球採取ほ場では、ネグニやさび病の発生に注意し、適正防除に努め、良質な種球の生産を行いましょう。



かんしょ <育苗、ほ場管理について>



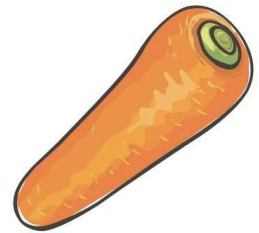
○育苗管理

気温が上昇するため、ハウス内はさらに高温多湿条件となります。
焼けを防ぐため、換気を十分に行ってください。
アブラムシ類、ハダニ類等の発生に十分注意し、本ぼに持ち込まないよう適切に防除を行ってください。

○ほ場管理

ハイバリヤーやおせんぼ等の難透過性フィルムを使用している場合、水分が多いほ場ではクロルピクリンが残っている場合があります。定植時は、におい等でクロルピクリンが残っていないことを確認してから行いましょう。
定植後40日頃までは、土壌水分が多めの方が芋の収量や品質が良くなります。気温が高くなるにつれ、アブラムシ類やダニ類が発生します。アブラムシ類は横縞症の媒介も行うので、見つけ次第防除して下さい。
乾燥しているほ場では、スプリンクラー等によりかん水を行ってください。
1回目の追肥は植え付け後40～50日が目安です。ただ、量が多すぎると過繁茂となり芋の品質が落ちます。また、急激な肥効も芋のワレの原因につながりますので注意して下さい。

にんじん <収穫作業について>



- 安全第一！ 機械による事故を防ぎ、適期収穫に努めましょう。
- 高温にならないように十分に換気穴を増やしましょう。
- 溝、ポンプなど万全の排水対策で大雨に備え、裂根を防ぎましょう。
- M、Lを中心に収穫しましょう。
- 収穫したにんじんの表面温度が高くなると品質が低下しやすいので、被覆資材等で遮光し、直射日光に当てないようにしましょう。

ブロッコリー <収穫時の品質管理について>

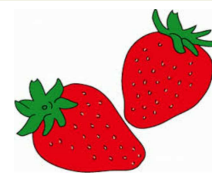


- 初夏どりは花蕾ができ始めると急速に肥大するので、収穫の適期幅が狭くなります。穫り遅れによる品質低下に注意しましょう。
- 収穫は早朝に行い、収穫後は断熱シート等で覆うなど品質維持に努めましょう。

農薬の適正使用について

- 農薬の散布作業等が本格化してくる時期を迎えています。
農薬使用時にはラベルに記載されている内容を確認の上、適切に使用するとともに、下記の事項にも留意して安全・安心な農産物の生産に努めて下さい。
- 農薬散布前には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか等を確認して下さい。
 - 農薬散布時には、散布した農薬が直接体にかからないように、マスク、眼鏡、防除衣等、適切な防護装備を着用するとともに、散布作業後には、体についた農薬を落とす為、全身をよく洗って下さい。
 - 散布した農薬が周辺圃場等にかからないように、ドリフト(飛散)には十分注意して下さい。
 - 農薬散布後にはホースやタンクを洗浄し、薬液を十分に洗い流して下さい。洗浄液や使用残農薬が河川や排水路に流れ込まないように注意して下さい。

いちご <親株の管理について>



- ハウス内の温度がかなり高く、日射も強くなるので、果実の日焼けや収穫後の傷みがおきやすくなります。
換気を行うとともに遮光資材を活用し、温度上昇を防ぎましょう。
- 親株・子苗の炭そ病の対策としては、夕方には植物体が乾くよう、午前中にかん水を行うとともに、濡れた状態で苗取りの作業を行わないようにしましょう。
薬剤防除は定期的に行い、雨天が続く場合は雨の合間に防除します。
- 苗受けの準備として、保水性、排水性の良好な育苗培土を用意しましょう。
萎黄病等の防除対策として、前年使用したポット等の資材をしっかりと消毒してから再利用しましょう。

えだまめ <温度と水管理に注意しましょう>

- 開花時期の適正な温度管理と水管理が収量増加につながります。
開花期から結実期に土壌を乾燥させると、落花し着莢数が少なくなりやすいので、早めにかん水して下さい。
収穫間近になったら灌水量を増やして、子実の肥大を図って下さい。
- 生育適温は20～25℃です。トンネル栽培では高温になりすぎないように、徐々に換気穴の大きさと数を増やして下さい。
- 収穫適期は短いので、過熟にならないうちに収穫して下さい。早朝涼しいうちに収穫し、品質を保つために出荷まで冷蔵庫で保管して下さい。
- ハダニ、アブラムシなどの害虫に注意し、見つけたら早めに防除しましょう。

なし <摘果と黒星病・赤星病の防除について>

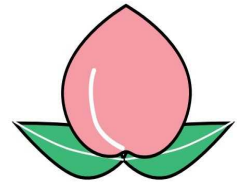


- 満開から40日間(5月20日頃まで)は、防除(黒星病、赤星病および芯腐れ症)や摘果の最も重要な時期です。雨天で散布できなかった薬剤は雨後にしっかり散布しましょう。
- 予備摘果は、生理落果終了後早めに行います。
原則として、1花そう1果(たて長で形の良い3～5番果)を残し、葉のない花そうは全部摘果してください。
赤星病、黒星病および強風のズレなどの被害果にも注意して摘果しましょう。
- 最終摘果は6月中旬までに行い、結果数は幸水9,000果/10a、豊水11,000果/10a以内としてください。
- 天気が良い日が続くと土壌が乾燥しますので、かん水を適時行いましょう。
- 梅雨に入り長雨が続く場合は、傾斜地では土砂止めや、排水溝、平坦地では排水溝の整備を行い、水はけをよくしておきましょう。
- 長果枝として使用する枝は、花芽分化を促進させるため、誘引して陽光が充分当たるようにしてください。

**4月10日～6月10日の期間は春の農作業安全運動月間です！
十分な休憩と睡眠を取り、作業前後の機械の点検整備を行いましょう。
農作業の安全に心掛け、事故防止に努めましょう。**

もも 〈園内を明るく管理しましょう〉

- 樹間内部の照度が高いほど、果実糖度が上がります。不用な枝に対して、生育期に芽かき、徒長枝の整理・ねん枝などを行い、樹幹内部にも光が当たるようにしましょう。
- 摘果は2段階に分けて行いましょう。
予備摘果は生理落下後20日くらいまでに所要数の150%程度にまで行いましょう。
仕上摘果は5月中に行いましょう。目安は、短果枝では4～5本に1果、中果枝で1本には1果、長果枝では1本2～3果残すようにします。
- 袋掛けは仕上摘果終了後、シンクイムシ類、黒星病、灰星病などの防除終了後に速やかに行いましょう。



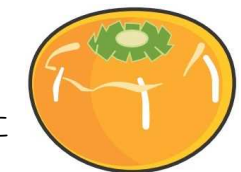
柑橘（すだち、はっさく、不知火等） 〈訪花昆虫の防除と摘果〉

- 開花期に訪花昆虫（ハナムグリ、ケシキスイ等）が吸蜜に来ると、雌しべの根本の果実の基が傷つき、商品性を損ないます。
開花初期と開花盛期が防除適期です。訪花昆虫の発生が少ない場合は、開花初期のみとし、多い場合は、開花初期と盛期の2回防除しましょう。
開花終わり頃に頃にこまめに花弁を振り落とすと灰色かび病の被害が少なくなります。
- 不知火については、6月中に仕上げ摘果を終わらせておきましょう。
不知火の摘果基準は、120葉に1果とします。



かき 〈摘蕾について〉

- 摘蕾は大玉果実生産に最も重要です。
開花2週間前頃から始め、原則は1新梢に1蕾としますが、強い新梢には2蕾残しましょう。
- 主枝・亜主枝先端の蕾は全て摘蕾します。残す蕾は、新梢の中央部辺りの正常な蕾とし、次のものは摘蕾しましょう。
 - ①一番元(小玉となりやすい)
 - ②上向き(日焼け果になりやすい)
 - ③遅れ花(熟期が遅れる)
 - ④果実が大きくなったときに枝や他の果実と接触しそうなもの。
- 主要な病害虫の重点防除時期となりますので、薬剤散布による防除を徹底しましょう。
- 害虫では、上旬はカキノヘタムシガ・イラガ・チャノキイロアザミウマ、下旬はフジコナカイガラムシの防除適期です。
- 炭そ病・落葉病は重点防除時期なので、害虫と同時にしっかり防除しましょう。



【農地を貸したい方・借りたい方へ】

**農地中間管理機構を利用してみませんか？
条件が満たせば、協力金が交付されます。詳しくは、市町窓口又は県農地中間管理機構（TEL:088-621-3083）までご相談ください。**

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515